

平成 29 年度補正予算 2 案に対する討論（案）

無所属の会
原口 一博

私は、無所属の会を代表し、ただいま議題となりました政府提出の平成 29 年度補正予算 2 案について反対の立場から討論を行います。

昨年の夏から秋にかけて、九州北部豪雨災害や台風により、大きな被害がもたらされました。お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。こうした災害に際し、被災者の方々が以前のように生活していくことができるよう、迅速に予算を措置していくことは当然であります。

一方、安倍政権下では、こうした災害対応を口実に、族議員、省庁が一体となって、不要不急の事業を山盛りにした補正予算が組まれることが多いと言わざるを得ません。財政健全化に後ろ向きという批判を少しでも避けるため、当初予算の編成時には多くの事業の予算を減額したかのように取り繕い、後で補正予算を組んで、大幅に増額する手法が常套手段となっております。

今回の補正予算もご多分に漏れず、不要不急の事業が山盛りです。防災・減災、生産性革命や人づくり革命の名の下、29 年度も終わりが近づいているのに具体的な計画もなく、緊要性が認め難い事業が多数計上されています。また、概算段階で要求されたものの、予算編成過程で 30 年度予算から落とされた事業が、本補正予算でゾンビのように復活しているケースも見受けられます。我が国経済財政が危機的状況にある中、このような予算に対し、1.2 兆円もの建設国債を発行し、将来世代にツケ回しを行うことは認められません。

最後に、信頼ある政治を取り戻すため、全力を尽くしていくことを国民の皆様にお誓い申し上げ、私からの討論といたします。